

明治ホールディングス株式会社

2025年12月24日

報道関係者各位

**「リテール AI アワード 2025」において、
商品マスタ利活用の取り組みが「メーカー部門賞」を受賞
～小売業界全体のデータ活用を加速する取り組みが評価～**

明治ホールディングス株式会社（代表取締役社長 CEO：松田 克也）の事業子会社である株式会社 明治（代表取締役社長：八尾 文二郎・以下、明治）は、一般社団法人リテール AI 協会（本社：東京都千代田区、代表理事：林 拓人）が表彰する「リテール AI アワード 2025」において、業界横断でデータ活用を推進する取り組みが評価され、「メーカー部門賞」を受賞しました。



2025年12月19日に開催された授賞式の様子（提供：一般社団法人リテール AI 協会）

■ リテール AI アワードとは

リテール AI アワードとは、同協会に参加する 244 社（9月6日時点）の会員社から、特に先進的な取り組みをしている企業を表彰することで、小売流通業界全体のデジタル化の機運を盛り上げることを目的に 2021 年度より設置されたものです。

明治は、一般社団法人リテール AI 協会が主催する「商品マスタ高度活用プロジェクト」に参画し、小売・卸・メーカー・テック企業の業界の枠を越えた取り組みに貢献してまいりました。商品マスタとは、商品コードや商品名、価格、メーカー名などの基本情報を一元管理するデータベースのことと、効率的な在庫管理や売上分析の基盤となるものです。

本プロジェクトでは、商品マスタの高度化と AI 活用の実証実験に取り組み、商品情報から商品属性（商品 DNA[※]）を AI により自動付与する技術開発により、商品マスタの高度活用に向けた実践的知見を業界全体へ還元することに取り組んでまいりました。具体的には、これまで人手で行う必要があった商品情報の分類や特徴づけ（例：「高タンパク」「ファミリー向け」など）を AI が自動的に抽出・付与することで、商品情報の管理効率化と、より消費者ニーズに合わせた商品開発の促進が可能になるとともに、業界全体でデータ連携のコスト削減と、データ活用の高度化が期待できます。

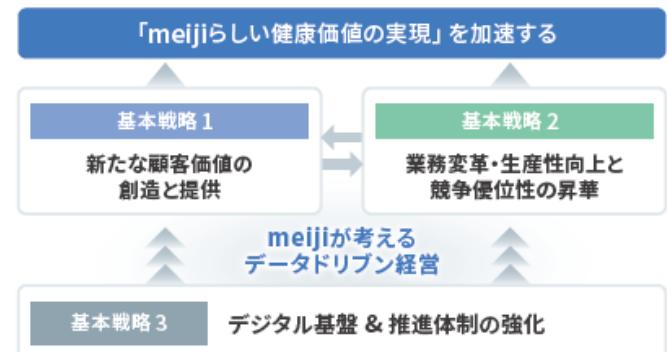
このたび、こうした取り組みが評価され、「リテール AI アワード 2025 メーカー部門賞」を受賞しました。

※商品 DNA とは、商品固有の特徴をデータ化したもの。味・品質・デザインなど、商品やブランドの一貫性を保つための情報であり、新商品開発などの基盤となる。

■受賞理由（一般社団法人リテール AI 協会コメントより引用）

商品情報の高度化という難題に対し、データ分析と仮説構築を通じて積極的に解決策を提示しました。専門性に裏打ちされた洞察と自由な発想で AI を活用した商品属性付与に取り組み、従来の課題に新たな切り口を与えました。メーカーならではの知見を生かし、データ活用の可能性を広げた姿勢が高く評価されました。

明治グループは今後も、データ活用に向けたアーキテクチャ設計と実装、専門人財の登用・育成など推進体制の強化によりデータドリブン経営（データに基づいて事実を解像度高く認識し、より高度な経営判断・事業判断の実行）を実践し、「meiji らしい健康価値の実現」を加速させてまいります。



【参考情報】

明治グループの DX について：<https://www.meiji.com/innovation/dx/>

以上